

お忙しくても、約 2 分間で読めます

ハートフル・ワード (心からの言葉)

山内公認会計士事務所

TEL 098-868-6895

FAX 098-863-1495

経営者への活きた言葉

目に見えない資本の軽視が企業の弱体化をもたらす 田坂 広志 (シンクタンク・ソフィアバンク代表)

1. これまでの金融資本主義では、貨幣という数値で示される「金融資本」に目が向けられてきました。しかし、現実には新たなビジネスが生まれるときには、最初に「目に見えない資本」が動きます。貨幣という「金融資本」は、むしろ、その結果として動くのです。まず、人間同志が出会い、関係が生まれ（関係資本）、知識を出し合い（知識資本）、出資を得るためにベンチャーキャピタルなどから信頼を獲得する（信頼資本）。そしてマスコミに取り上げられて知名度が上がり（評判資本）、起業家を支援し、励ますコミュニティに加わる（文化資本）。実際にはこうした「見えない資本」が動き、その結果として「金融資本」の動きが起これ、キャッシュフローが生まれてくるのです。
2. 例えば、新技術、新事業、新産業が絶え間なく生まれるシリコンバレーの強さの本質は、この「目に見えない資本」の蓄積と流通にあります。従って、もし本当に日本に新事業や新産業を生み出したいのであれば、「目に見えない資本」を重視し、豊かに育て、活用しなければなりません。
3. それは、企業経営も同じ。目に見える収益だけを求めると、社員の意欲は低下し、組織の文化が壊れます。「目に見えない資本」を毀損してしまうのです。それが、日本企業を弱体化した本当の理由でしょう。金融資本の肥大化で、経営者が長期的視点を失った。そして、「目に見えない資本」を軽視するようになった。それが真の原因です。

(参考:「日経ビジネス」2010年3月29日号)

ワンポイント経営アドバイス

創業者が初めに考えておくべきこと

(P. F. ドラッカー)

1. 「ベンチャーが発展し、成長するに伴い、創業者たる企業家の役割は変わらざるをえない。これを受け入れなければ、事業は窒息し破壊される」。ベンチャーが成功を始めたら、自らの役割を変えなければならぬ。しかし、具体的に何をどう変えたらよいかを知る者は少ない。どうしても「自分は何をしたいか」から考える。あるいは「自分は何に向いているか」を考えてしまう。
2. しかし、いずれも間違いなのだ。何をおいてもまず初めに考えるべきことは、「事業にとって大事なことは何か」なのである。創業者たる企業家は、事業をスタートさせたとき、事業が軌道に乗ったとき、大きく伸びたとき、この問いを必ず考えなければならない。そして、次に問うべき問いが、「自らの強みは何か」であり、「事業にとって大事なことのうち、自らが貢献できるもの、他に抜きんでて貢献できるものは何か」である。「自分は何を行いたいか」を考えるのは、その後のことである。

(参考:「週刊ダイヤモンド」:2010年3月27日号)

経営者のための理念・哲学

一源三流が人をつくり道をつくる

1. 孔子も釈迦も独自の道をつくった人である。しかし、孔子も釈迦も最初から孔子、釈迦であったわけではない、それぞれの成長期にそれぞれの道を学び、その道を踏査していくことによって独自の道をつくり出していったのである。道をつくった人は、道をつくろうと思った人である。その思いを強く熱く反復した人である。行ったり来たりする中で道はできる、一回通っただけでは道はできない。
2. 「一源三流」という古話がある。「一源」は誠、誠実である。この誠、誠実を源にして、①汗を流す②涙を流す③血を流す、すなわち「三流」である。汗を流すとは勤勉、努力すること、一心不乱に打ち込むことである。涙を流すとは降りかかる困難に耐えて人知れず涙を流す、あるいは達成の喜びに感動の涙を流すこと。血を流すとは命を込める、命をかけることである。「一源三流」は人をつくり、道をつくる**ばんこふえき**の原理である。

(参考:「致知」2010年7月号)

古典に学ぶ

「修身教授録」・語録 50 選 (その 3)

1. その人を真に知るとは、その方の真の歴史的位を知ることで。
2. この血と育ちに根差した人間のあくは、なかなか容易なことでは抜けない。
3. 人間の一生の基礎は、大体 15 歳までに決まる。
4. 真の修身家は、自分の一生の志を立てることが根本。
5. 人間の偉さも、この仕事の処理いかんによって決まる。

(参考:森 信三「修身教授録」:致知出版社)